

はじめに



「まちづくり」という言葉は、戦後間もない時期から使われていますが、これまでの行政からの計画の提示と事業の実施あるいは住民からの陳情要望によるまちづくりから一歩前進し、1980年代中頃からは「市民参加型のまちづくり」を意味する言葉として定着してまいりました。また、従来の手法ではまちづくりを行ううえで限界があり、そこに住んでいる人、そこを利用する人をまちづくりの担い手として、行政と協働作業を行いながら複雑になった都市機能や住民関係を解きほぐし、合意形成にいたる時間はかかったとしても、話し合いの過程を大切に、よりきめ細かなまちづくりを行っていくべきではないかというように認識が変わってまいりました。

さらに、地方分権や財政難が課題となっている今日、行財政システムの効率化や優れた「民の力」が十分に活かされた行政の取り組みの実施によって、限られた投資で大きな効果が期待できる公共投資を可能とする道筋をつくる上でも、市民と行政が協力、合意のもとで事業を行っていくパートナーシップのまちづくりを展開していくことが重要であると言われています。

今回の「香川のまちづくり」は、本市では初の試みである「市民と行政のパートナーシップ」による新たなまちづくりであると言えます。このような中で、行政は「現場に赴く」という「市民活動に対する行政参加」スタイルのもと、ワークショップの開催や市民へのお知らせとして瓦ばんの全戸配布、意見交換会や先進市への視察、香川福祉ふれあいまつりへの参加、そして公募市民や関係団体代表で構成される「香川駅周辺地区まちづくり検討会」における「市民提案型」のまちづくり計画への取り組みにも関わらせていただきました。そして市に提出された「香川駅周辺地区まちづくりへの提言」をもとに、このたび「香川まちづくり基本計画」がまとまりました。

この計画策定は、香川のまちづくりにおいてはまだ第一ステップに過ぎず、さらに地域住民の皆さまとの連携を深め、より地域と一体になったまちづくりを展開してまいりたいと思います。

終わりに、この計画策定にあたり、貴重な「香川駅周辺地区まちづくりへの提言」をいただきました「香川駅周辺地区まちづくり検討会」の委員の皆様をはじめ、「香川自治会」「香川まちづくり促進会」の皆様に深く感謝いたすとともに、多くのご意見やご提案をいただきました市民の皆さまに対しまして、心より厚くお礼申し上げます。あわせて今後の計画の実現に向けて皆さま方のより一層のお力添えを心よりお願い申し上げます。

平成17年(2005年)3月

茅ヶ崎市長 服部 信明